



図書館だより



2023年
12月20日発行

秋草学園高等学校 図書館

今年も残りわずかとなりました。2023年はみなさんにどんな年になったでしょうか。1年の出来事を振り返りながら、よい年末年始を過ごしてくださいね。さて、蔵書点検による2週間の閉館が終わり、図書館は今日から再開しました！図書館の本を読む日を待っていたみなさん、たくさん借りにきてください。明日の終業式以降も冬期講座期間は開館していますので、ゆっくりと図書館での時間を過ごしてもらえたら嬉しいです。館内ではクリスマスにおすすめの本や図書委員が推すこの冬のおすすめ本を展示しています。ぜひ手に取ってみてください。

2023 これを読まなきゃ終われない！

村上春樹さん6年ぶりの長編小説『街とその不確かな壁』や黒柳徹子さん42年ぶりの続編『続 窓ぎわのトットちゃん』、本屋大賞を受賞した瓜良ゆうさんの

『汝、星のごとく』（秋草の図書館でも大人気でした）、自分と同じ重度障害を持つ主人公を描き、芥川賞を受賞した市川沙央さんの『ハンチバック』など、今年もたくさんのお本が話題となりました。みなさんの興味を引いたのはどの作品だったのでしょうか。年末は何かと忙しいですが、今年気になった本は今年のうちに読めるといって

596-7 『やる気1%ごはん』

まるみキッチン || 著 KADOKAWA 
第10回 料理レシピ本大賞 in Japan の料理部門で大賞に選ばれたレシピ本。気力がなくてもテキトーでもおいしいごはんが作れる500のレシピが載っています。手順をみると本当に簡単だし、とてもおいしそう！年末年始に早速作りたい品がたくさん見つかるはず。

913.6-7 『歌われなかった海賊へ』

逢坂 冬馬 || 著 早川書房

2022年本屋大賞『同志少女よ、敵を撃て』の著者による新作。ヒトラーによるナチ占領下のドイツで、エーデルヴァイス海賊団を名乗り、自国の体制に反抗する少年少女たち。大人が真実から目をそらす中、人間の心を失わず、勇敢に行動する彼らに深く考えさせられる。

913.6-ナ 『木挽町のあだ討ち』

永井 紗耶子 || 著 新潮社

第169回直木賞受賞作。時は江戸時代。木挽町の芝居小屋の裏手で起きた若者による仇討ちから物語は幕を開ける。人情味あふれる芝居小屋の人々の証言から仇討ちに秘められた真相が紐解かれていく展開は時代小説を読み慣れていない人も惹きつける。

お家で本を片手にのんびり年越し

726-ナ 『疲れた人に夜食を届ける出前店』

中山 有香里 || 著 KADOKAWA

ハトハトに疲れている人に夜食を届けてくれる出前店。店員はクマ、サケ、ゴリラ、ネコ。「え、クマ?」「ゴリラ!？」とみんな驚くけれど、あたたかくて優しいごはんが心も体も癒してくれる。やわらかなイラストとクスッと笑えるダジャレにもほっこり。かわいいレシピにも注目！

914-コ 『縁もゆかりもあったのだ』

こだま || 著 太田出版

夫婦で「メロン断ち」をして臨んだ夕張メロン食べ放題、1年の頑張りを蟹で労った翌朝に女湯と男湯を間違えた宿、ホノルルの空港で探知犬に母が捕まった家族旅行、笑いとぬくもりを感じられる紀行エッセイ集。次はどんな場所で何が起きるのか、気づけば夢中で読んでしまう。

新着コーナーの気になる本

913.6-7 『リカバリー・カバヒコ』

青山 美智子 || 著 光文社

公園にある古ぼけたカバのアニマルライド「カバヒコ」には治したい場所と同じ部分を触ると回復するという噂がある。悩みを抱え、自信をなくした人たちがカバヒコとの出会いをきっかけに心をリカバリーしていく。身近な人がくれる優しさに気づけるあたたかな連作短編集。

913.6-カ 『エヴァーグリーン・ゲーム』

石井 仁蔵 || 著 ポプラ社 

チェスに魅せられた4人の少年少女の物語。様々な境遇の下、チェスと出会い、人生が変わった彼らは誰にも負けない熱い思いを胸に駒を操る。その4人が集結し、チェスワングランプリの頂点に挑む。人生を懸けた戦いを繰り広げる姿からチェスの世界に興味を湧いてくる1冊。

司書の今月はこの本読みました

高校時代に図書館で『カラフル』を読んでから、ずっと森 絵都さんが好きです。その森絵都さん3年7ヶ月ぶりの新作『獣の夜』（913.6-モ 朝日新聞出版）を読みました。ページ数も物語の雰囲気もそれぞれ異なる7つの作品がおさめられています。表題の『獣の夜』は展開が楽しかったし、「気軽に漕げるような」ものがほしいと自転車をリクエストしたつもりが彼からとんでもないものを贈られるところから始まる『スワン』、何気なく作ったてるてる坊主がしゃべり出す『明日天気になれ』のほっこり感もよかったです、どの作品の持ち味も魅力がありました。【今井】